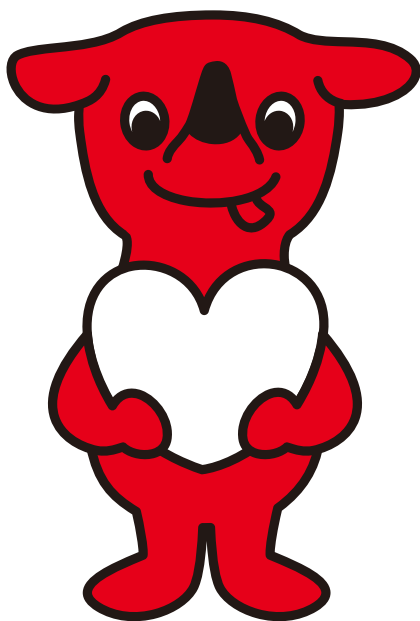


# ちばコラボ大賞

第8回

## 表彰事例の紹介



千葉県マスコットキャラクター  
「チーバくん」



県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、市民活動団体が地縁団体、企業や学校、行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果を上げている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」として表彰しています。

第8回目となる平成30年度は、県内各地から13件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



平成30年度ちばコラボ大賞表彰式は平成30年12月26日にホテルプラザ菜の花で開催されました。

表彰式では、玉田環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。

玉田環境生活部長からは、「受賞団体の皆さま、おめでとうございます。日頃の御努力に心から敬意を表します。皆様方の取組が千葉県全域で広く行われ、支え合いと活力のある地域づくりが促進されることを大いに期待しております。」とメッセージが送られました。

また、鎌田審査委員長からは、受賞された3事例に関する講評と「今回表彰されなかった事例にも今後の発展が期待される取組が多くありました。地域の課題をしっかりと捉え、さらに素晴らしいコラボの事例となっていくことを期待します。」と激励の言葉をいただきました。



審査委員長 鎌田 元弘 氏



表彰事例記念写真の様子

表彰事例

## 1 ひまわりサロン[四街道市]

- 四街道市旭中学校地区民生委員児童委員協議会
- 旭ヶ丘自治会
- みそら自治会
- 四街道市旭中学校地区社会福祉協議会
- 鷹の台自治会他

### コラボのきっかけ

少子高齢の団地では、高齢化の不安や子育ての不安を抱える人が多く、気軽に集まれる場所があれば、助け合えるネットワークが作れるのではないかと考えていました。そこで、地域の連携協力体制を築きたい民生委員、高齢化対策に悩む自治会、市民の理解を得たいと悩む社会福祉協議会の3者が研修で出会った際に合致して「プロジェクトひまわり」が誕生しました。

### 事業の内容

「プロジェクトひまわり」では、高齢化が進んでいることや、自治会館を新しく建て直した旭ヶ丘を皮切りに、2年間で3か所のサロンを立ち上げる計画を練り、アンケートやPR・広報を経て、誰でも気軽に参加できるひまわりサロンを誕生させることができました。そうして立ち上がったサロンは、民生委員が全員運営委員であり、自治会が会場を優先的に確保し、社会福祉協議会がサロンの社会的信用を担っています。

サロンでは、100円カフェや健康講座などを開催し、参加者は年間1万人を超えるようになり、安全・安心・楽しい街づくりにつながっています。

### 評価のポイント!

連携がなかなか進まない地縁団体、自治体、社会福祉協議会が連携し繋がっており、地域の人にとっても根付いています。また、応用性が高い事例で今後の発展も期待できる点が評価されました。





## 2 ハッピーマタニティフェスタinいちかわ[市川市]

- 子育て応援メッセ実行委員会
- NPO法人市川子ども文化ステーション
- 市川市子育て支援課
- さかえ・こどもセンター
- 有限会社武藤自動車
- NPO法人いちかわ子育てネットワーク
- ファザーリング・ジャパンちば
- 市川市保健センター健康支援課
- 国府台保育園・こあらっこ・こどもセンター
- 雪印ビーンスターク株式会社
- NPO法人親そだちネットワーク ビジー・ビー
- NPO法人ハートフルコミュニケーション
- 市川市社会福祉協議会
- 生活協同組合コープみらい
- 医療法人成和会山口病院

### コラボのきっかけ

子育ての原点「妊娠・出産」を意識した時点から情報を届けていくために、出産・産前産後のサポートや、子育てに関わる人たちのネットワークをつなぎ、「地域で子育て」の第一歩を作ることを目的にNPO、行政、企業等が連携をとってイベントを開催しました。

初めて出産を迎える妊婦さんの不安やお父さんになる男性の不安、出産・育児を支える側に回った親世代の不安など、たくさんの不安に大丈夫というメッセージを送っています。

### 事業の内容

協働でイベントを開催することによって、NPO団体は行政担当者と顔見知りとなり困難事例の場合の相談ができることや、企業連携することで資金面の支援を受けることができ、告知ルートも広がりました。行政や企業は、施策や事業のPRができています。

イベントでは、妊婦さんが関心をもつような内容を中心に、妊娠出産にかかわる情報提供、産婦人科医とのミニ座談会、妊婦体験ワークショップなどを行っています。年々来場者も増え、地域で出産・子育てを支える仕組みづくりに繋がっています。

### 評価のポイント!

子育てのハッピーな部分だけでなく、ブルーの部分の支援をしていることが地域を支えることにも繋がっています。イベントの参加者を集める工夫が素晴らしいと評価されました。



## 3 nigiwaiプロジェクト～公民館で繋がる～[富津市]

- 富津市教育委員会 (教育部生涯学習課・中央公民館)
- nigiwai
- 社会福祉法人薄光会
- 社会福祉法人アルムの森
- ヒラマ畳工業

### コラボのきっかけ

図書館のない富津市にとって公民館の図書室は重要な施設でありながら、職員の不足により除籍まで手が回らず図書があふれ利用しづらい状況だったため、教育委員会が職場体験で生徒の力を借り、蔵書整理をはじめました。

また、「本を整理したい」という市民を集めて図書ボランティアを立ち上げ、市民の力を図書室の整理に生かしてもらうことになりました。

### 事業の内容

図書室では、図書ボランティアが随時整理を行い、除籍した本は「図書リサイクル会」で市民の手に渡せるようになりました。

また、生活の中で図書に親しめる環境や「みんなの居場所」が欲しいという思いから、子育て世代を中心とするグループが生まれ、レイアウトも含めた図書室改修から、やがて公民館全体の整理・改善へと進みました。更に地元の福祉施設や各種団体と連携しながら、公民館カフェやフリーマーケットを開催したり、「雑誌スポンサー制度」を実現したりしています。

「お座敷図書室」ができるなど、公民館が快適な居場所となり、利用者も増え、多種多様な地域住民がどんどん繋がっています。

### 評価のポイント!

一般市民から沸き起こった事例ということが素晴らしく、この熱意には波及効果が期待できます。危機感のある地域でありながら、住民が参画し、繋がりをもって地域を担うという点が高く評価されました。



# 平成30年度 ちばコラボ大賞 応募事例

※表彰事例は除く

- 国分寺台地区の地域ネコ活動・人とネコが共生できる街づくり(市原市)
- 月曜日はパラスポーツ(茂原市)
- ユニバーサル農業のすゝめ～誰もが関われる農業のカタチ～(四街道市)
- 子育て世代が愉しむ木材の地産地消  
～おもちゃ作りを通して、千葉の森をもっと元気に～(千葉市)
- 市民の方から頂いた本をボランティアが貸し出す  
民間図書館の運営(船橋市ほか)
- 地域連携自主防災事業(松戸市)
- 「食と健康」についての食育推進事業(県内各地)
- 大学、地域住民、専門職が協働する  
「認知カフェ」運営における地域連携(千葉市)
- フードバンクちばとの協働の取り組み  
「もったいない」を「ありがとう」に(千葉市)
- 養老桜とアートの小径プロジェクト  
(文化と芸術の里づくり)(市原市)



NPO案内犬  
「PONちゃん」

## 平成30年度 スケジュール

- 6月～8月 連携事例の募集
- 9月～10月 事務局による1次審査
- 10月～11月 審査委員による2次審査
- 12月 表彰式